SONY

2-650-483-04(1)

デジタルサラウンドヘッドホンシステム

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

MDR-DS1000

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

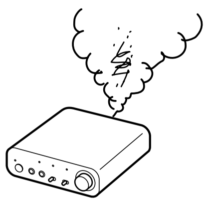
1年に1度は、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントとの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



❶ 電源を切る

❷ ACパワーアダプターをコンセントから抜く

❸ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・漏液・発熱・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・発熱・発火・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、漏液・破裂・発熱・発火・感電などによりやけどやけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災　感電

行為を禁止する記号



禁止　接触禁止

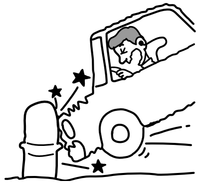
警告

火災　感電

下記の注意を守らないと、**火災・発熱・発火・感電**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

運転中は使用しない

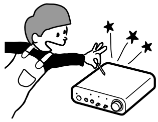
自動車の運転をしながらヘッドホンを使用したり、細かい操作をしたりすることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、ACパワーアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

この製品を海外で使用しない

ACパワーアダプターは、日本国内専用です。
交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

接触禁止



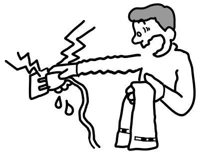
指定以外のACパワーアダプターを使わない

破裂・液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

⚠注意 下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。



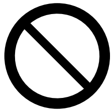


接触禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。





禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

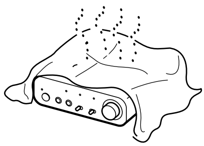
突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。とくに、ミニディスク、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器を聞くときにはご注意ください。

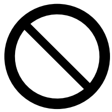
通電中のACパワーアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

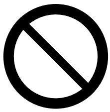




禁止

かゆみなど違和感があったら使わない

使用中、肌に合わないと感じたときは使用を中止して医師またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

主な特長

本システムはデジタルサラウンドヘッドホンシステムです。
DVDプレーヤーなどと本システムのデジタルサラウンドプロセッサーを付属の光デジタル接続ケーブルで接続するだけで、マルチチャンネルのサラウンド音場を、ヘッドホンで快適にお楽しみいただけます。

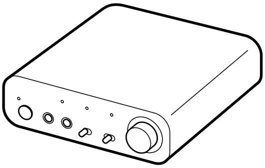
- ドルビーデジタル*、ドルビー プロロジックII*、DTS*対応(「ドルビーデジタルサラウンドEX」、「DTS-ES」表記のソフトも再生可能)
- ドルビーデジタル／ドルビープロロジックII、DTSバーチャル認証取得
- さらに進化した「バーチャルホンテクノロジー」により、よりリアルな臨場感あふれるサラウンドサウンドをヘッドホンで実現
- XDテクノロジーヘッドホン採用による映画音質の実現
  付属のヘッドホンに広いダイナミックレンジを実現するロングストローク振動板搭載の大口径40 mmドライバーユニットを採用。また、耳への圧迫や負担を軽減して長時間の鑑賞も快適に楽しんでいただけるイヤーコンシャスデザインを採用。

* **本システムのプロセッサーは、ドルビーデジタルデコーダー、ドルビープロロジックIIデコーダー、およびDTSデコーダーを搭載しています。**
  本システムのプロセッサーはドルビーラボラトリーズおよびデジタルシアターシステムズ社からの実施権に基づき製造されています。

本体／付属品を確かめる

本機をお使いになる前にすべてそろっているか確かめてください。

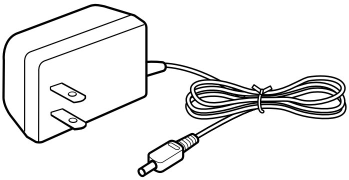
①プロセッサー DP-1000（1台）



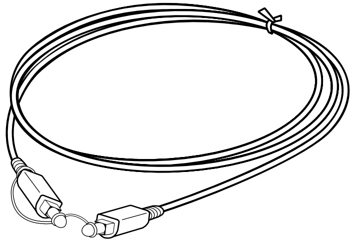
②ヘッドホン MDR-XD050（1台）



③ACパワーアダプター（1個）

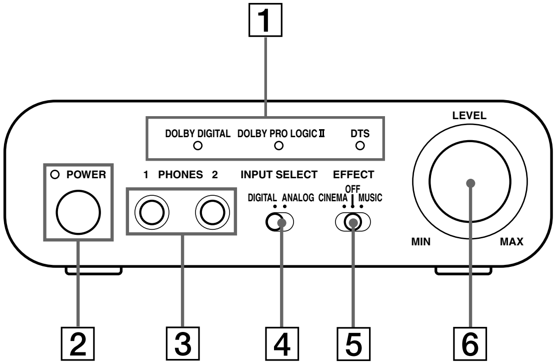


④光デジタル接続ケーブル
（光角型プラグ↔光角型プラグ、1本）



各部のなまえと働き

プロセッサー前面



1 DECODE MODE（デコードモード）ランプ
（詳しくは14ページ）

2 POWER（電源）ランプ
電源を入れると緑に点灯します。
POWER（電源）スイッチ
電源の入／切の切り換えに使います。

3 PHONES端子
付属のヘッドホンをつなぎます。

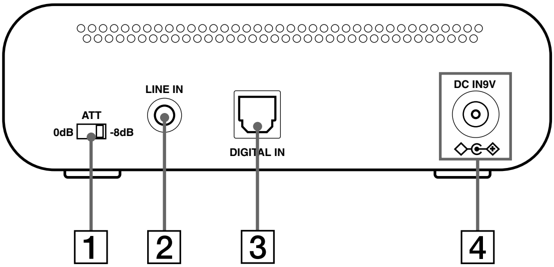
4 INPUT SELECT（入力切り換え）スイッチ
入力（DIGITAL/ANALOG）の切り換えに使います。

5 EFFECT（効果）スイッチ
（詳しくは13ページ）
音場モード（CINEMA/OFF/MUSIC）の切り換えに使います。

6 ボリューム
PHONES端子につないだヘッドホンの音量を調節します。

（次のページへつづく）

プロセッサー後面



1 ATT(アッテネーター)スイッチ
アナログ入力で音声が小さい場合は「0dB」に切り換えます。通常は「–8dB」にして使います。

2 LINE IN(ライン イン)(ライン入力)端子
(詳しくは10ページ)
ビデオデッキやテレビなど、別売りのAV機器の音声出力端子につなぎます。

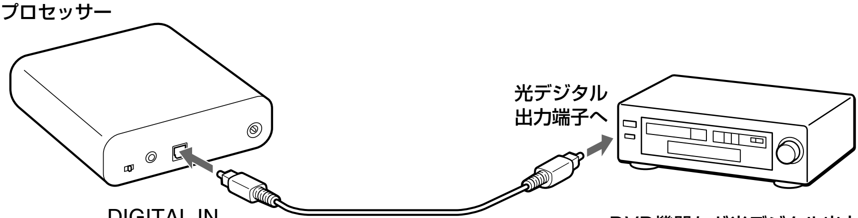
3 DIGITAL IN(デジタル イン)(デジタルソース入力)端子
(詳しくは9ページ)
DVD機器など、別売りのデジタル機器につなぎます。

4 DC IN 9V(ディーシーイン)端子
付属のACパワーアダプターをつなぎます。(必ず付属のACパワーアダプターをお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因となり危険です。)

ヘッドホンシステムをつなぐ

プロセッサーとデジタル機器をつなぐ

付属の光デジタル接続ケーブルを使って、DVD機器などの光デジタル出力端子*と、プロセッサーのDIGITAL IN端子をつないでください。



ご注意

- 光デジタル接続ケーブルは非常に精密に作られています。このため、外部からの力や衝撃に対して弱くなっておりますので、プラグを抜き差しするときは丁寧にお取り扱いください。
- 本機のデジタル入力は96 kHzのサンプリング周波数には対応していません。DVD機器側のデジタル出力に関する設定を48 kHzにしてお使いください。96 kHzのデジタル信号を入力すると、ノイズが出ることがありますのでご注意ください。

* CDプレーヤー等PCM出力しかサポートしていない機器の場合、サラウンド効果はすべてDOLBY PRO LOGIC II処理になります。

DTSについて

- DTS音声で収録されたDVDを再生するには、DTSに対応したDVD機器が必要です。（詳しくはお使いのDVD機器の取扱説明書をご覧ください。）
- DTSフォーマットのCDで、早送り時や巻き戻し時などにノイズが発生することがありますが、故障ではありません。
- DVD機器のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている場合は、DVDメニューでDTS出力を選択しても音が出ないことがあります。
- DVD機器と本機をアナログで接続している場合、音が出ないことがあります。この場合は、デジタルで接続してください。

（次のページへつづく）

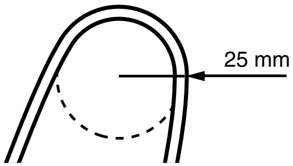
接続コード(別売り)
ポータブルDVDプレーヤーやポータブルCDプレーヤーなどの光ミニデジタル出力端子からDIGITAL IN端子へつなぐときは、接続コード POC-5AB(光ミニプラグ ←→ 光角型プラグ)などをお使いください。

光デジタルセレクター(別売り)
複数のデジタル機器を接続したいときは、光デジタルセレクター SB-RX100P(入力4系統、出力3系統)をお使いになると便利です。

光デジタル接続ケーブルについてのご注意

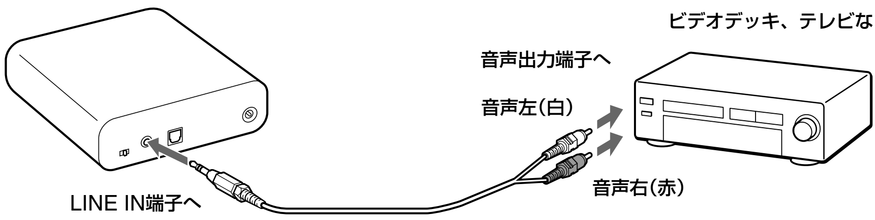
- 光デジタル接続ケーブルには落下物などによる衝撃を与えないでください。
- 光デジタル接続ケーブルの抜き差しは、プラグを持って、丁寧に行なってください。
- 光デジタル接続ケーブルの先端が汚れると性能が低下しますので、汚さないようにしてください。
- 保管の際は、プラグ先端にキャップを付けて、光デジタル接続ケーブルを折り曲げすぎないようにしてください。

光デジタル接続ケーブルの最小曲げ半径は25 mmです。

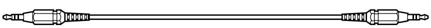


プロセッサーとアナログ機器をつなぐ

別売りのオーディオ接続コードを使って、ビデオデッキやテレビなどの音声出力端子と、プロセッサーのLINE IN(ステレオミニジャック)端子をつないでください。



接続コード(別売り)
ヘッドホン端子などのステレオミニジャックからLINE IN端子へつなぐときは、接続コード RK-G136(ステレオミニプラグ ←→ ステレオミニプラグ)などをお使いください。

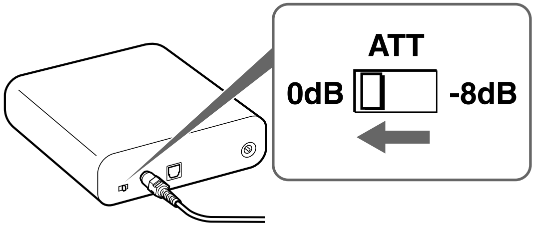


この場合、プレーヤー側のボリュームを中ぐらいにしてお使いください。プレーヤー側のボリュームが低く設定されていると、ノイズが発生することがあります。

その他の接続コード(別売り)については、「主な仕様: 推奨アクセサリー」(21ページ)をご覧ください。

ATTスイッチについて

アナログ入力で音声が小さいときは、プロセッサー裏面にあるATT（アッテネーター）スイッチを「0dB」に切り換えてお使いください。

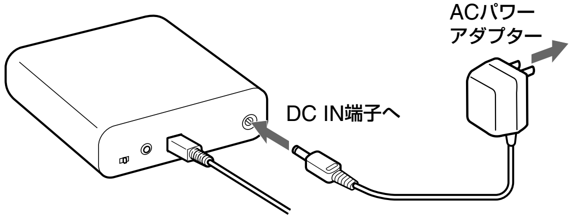


位置	視聴ソース
0dB	テレビやポータブル機器など、出力レベルの低いもの
–8dB	その他の機器（出荷時の設定）

ご注意

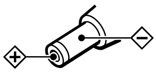
- ATTスイッチは、必ず音量を下げてから切り換えてください。
- アナログ入力された音声がひずむ（同時にノイズが発生する場合もあります）ときは、ATTスイッチを「–8dB」に切り換えてください。

壁のコンセントへつなぐ



ご注意

- 必ず付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因になります。



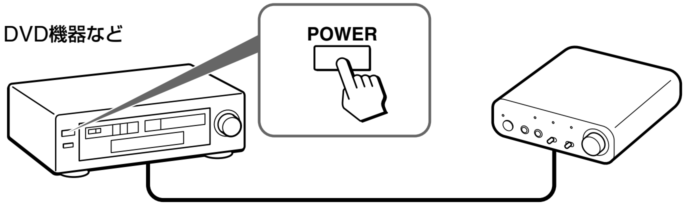
極性統一形プラグ

- 電圧やプラグ極性が同じACパワーアダプターでも、電流容量その他の要因で故障の原因になります。必ず付属のACパワーアダプターをご使用ください。
- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターを本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。
- 火災や感電の危険をさけるために、ACパワーアダプターを水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、ACパワーアダプターの上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

つないだ機器の音声を聞く

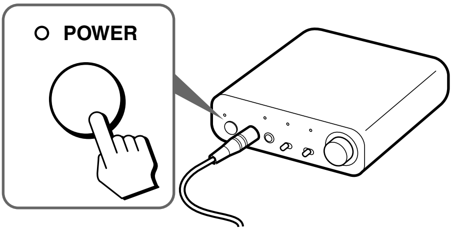
操作に入る前に、必ず「ヘッドホンシステムをつなぐ」(9〜11ページ)をご覧の上、正しい接続を行なってください。

1 プロセッサーをつないだ機器の電源を入れる。



2 ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、プロセッサーの電源を入れる。

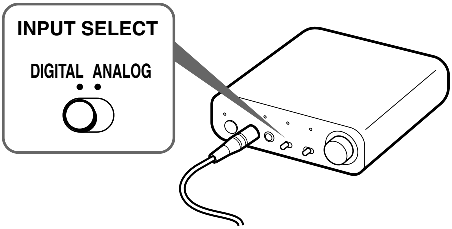
プロセッサーの電源が入ると、つないだAV機器から入力される音声信号とEFFECT(効果)スイッチの位置に応じて、DECODE MODE(デコードモード)ランプが点灯します。



3 ヘッドホンをかける。

右ハウジング部(R)を右耳に、左ハウジング部(L)を左耳に合わせ、頭にかけてください。

4 INPUT SELECT(入力切り換え)スイッチで、音声を聞く機器を選ぶ。



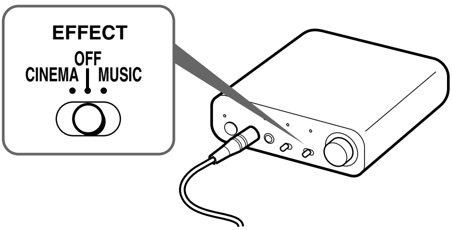
スイッチの位置	聞きたい音源
DIGITAL	DIGITAL IN端子につないだ機器の音声
ANALOG	LINE IN端子につないだ機器の音声

ご注意

二重音声(MAIN/SUB)の音源を視聴するときは、LINE IN端子に接続して、プレーヤーやテレビの方で聞きたい音声を選んでください。

5 手順4で選んだ機器の再生を始める。

6 EFFECT(効果)スイッチで、好みの音場モードを選ぶ。



スイッチの位置	音場モードと適した入力ソース(音源)
OFF	通常のヘッドホン再生。
CINEMA	リアリティのある臨場感あふれるサラウンドモード、まさにシーンの中にいるような感覚に近づけます。 映画などのソースに適しています。
MUSIC	音響環境のよいリスニングルームの音場を再現するモード。音楽ソースに適しています。

ご注意

再生する入力信号によっては、スイッチの位置により、再生音量に違いが生じる場合があります。

(次のページへつづく)

DECODE MODE(デコードモード)ランプについて

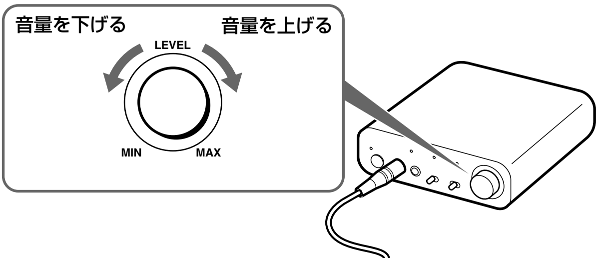
入力された音声信号の記録方式をプロセッサーが自動判別して点灯します。ドルビーデジタル／DTSなどの音声切り換えは、接続した機器側(DVD機器など)で行なってください。

- DOLBY DIGITAL：ドルビーデジタルフォーマットで記録された信号
- DOLBY PRO LOGIC II：アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号またはドルビーデジタル2チャンネル信号がドルビープロロジックII 処理された場合(音場モード「OFF」を選んでいる場合はドルビープロロジックII 処理されません)
- DTS：DTSフォーマットで記録された信号

ご注意

DIGITAL IN端子につないだ機器が、早送りや巻き戻しなど「再生」以外の状態ではDECODE MODE(デコードモード)ランプが正確に点灯しない場合があります。その場合は、「再生」状態にするとDECODE MODE(デコードモード)ランプが正確に点灯します。

7 音量を調節する。



ご注意

- 映画の場合、静かなシーンで音量を上げすぎて、急な爆発シーンなどで耳を痛めないようご注意ください。
- ヘッドホンをはずす前にプロセッサーからACパワーアダプターをはずすと、雑音が入ることがあります。

各モード間の移行時間について

プロセッサーの各スライドスイッチを操作してから新しいモードに移行するときに、移行時間が異なる場合があります。これはモード移行によるシステム制御の違いによるものです。

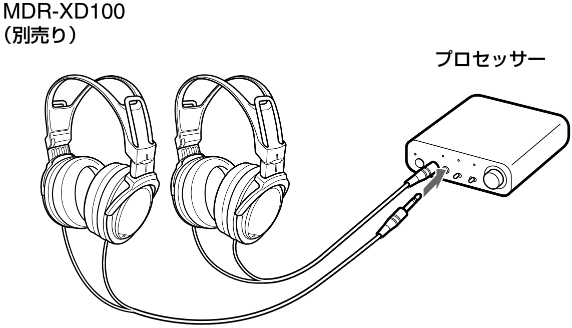
ご注意

- 音楽CDのように映像を伴わないソースの場合、音の定位がわかりにくい場合があります。
- 本システムは人間の平均的なHRTF*(頭部伝達関数)をシミュレートしていますが、HRTFには個人差があるため効果の感じかたは人により異なる場合があります。

* Head Related Transfer Functionの略です。

ヘッドホンを増設して楽しむ

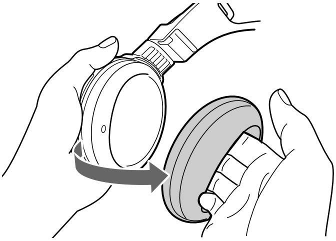
本システムでは、別売りのヘッドホン（MDR-XD100推奨）を増設することにより、2人が同時に楽しむことができます。



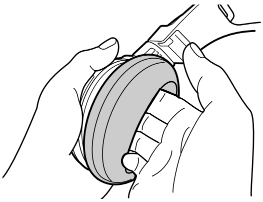
イヤーパッドを交換する

イヤーパッドは消耗品です。汚れたり破損した場合は、下図を参照してイヤーパッドを交換してください。このイヤーパッドは市販されていませんので、お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口へお問い合わせの上、お取り寄せください。

1 古くなったイヤーパッドをはずす。



2 イヤーパッドをハウジングの外周に合わせるようにはめ込む。



故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	➡ プロセッサーとAV機器の接続を確認する。 ➡ デジタル入力を選択している場合は、接続機器の光デジタル出力の設定が「OFF」や「切」になっていないか確認する。 ➡ プロセッサーにつないだAV機器の電源を入れ、再生を始める。 ➡ プロセッサーのINPUT SELECTスイッチの設定が、音を聞きたい機器を正しく選んでいるか確認する。 ➡ プロセッサーとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの音量を上げる。 ➡ DTSに対応していないDVD機器でDTS音声トラックを再生している。 • DTSに対応したDVD機器を使用する。またはDolby Digital やPCM音声トラックを選択する。 ➡ DVD機器（ゲーム機を含む）のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」の状態で、DTS音声で収録されたDVDを再生している。 • お使いのDVD機器の取扱説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。 ➡ DVD機器（ゲーム機を含む）と本機をアナログで接続している状態でDTS音声で収録されたDVDを再生している。 • デジタルで接続してください。（DVD機器からアナログ音声が出力されない場合があります。）
音がひずむ、とぎれとぎれになる（同時にノイズが出る場合もある）	➡ アナログを選択している場合は、プロセッサーのATTスイッチを「–8dB」に切り換える。 ➡ プロセッサーとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を下げる。 ➡ DTSソース視聴時は、プロセッサーのEFFECT（効果）スイッチを「CINEMA」または「MUSIC」に切り換える（13ページ）。
音が小さい	➡ アナログを選択している場合は、プロセッサーのATTスイッチを「0dB」に切り換える。 ➡ プロセッサーとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの音量を上げる。

（次のページへつづく）

症状	原因と対応のしかた
雑音が多い	➡プロセッサーとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡接続コードやヘッドホンのプラグ部分が汚れていないか確認する。
サラウンド効果が得られない	➡プロセッサーのEFFECT（効果）スイッチを「CINEMA」または「MUSIC」に切り換える（13ページ）。 ➡再生中の音声がマルチチャンネルの信号になっていない。 • モノラル音源の場合、サラウンド効果が得られません。
DOLBY DIGITAL ランプが点灯しない	➡DVD機器（ゲーム機を含む）の音声デジタル出力の設定が「PCM」になっている。 • お使いのDVD機器の取扱説明書をご覧になり、ドルビーデジタルデコーダーを内蔵した機器を使用するときの設定（「ドルビーデジタル／PCM」、「Dolby Digital」など）に切り換えてください。 ➡ドルビーデジタルフォーマットで記録されていない信号を再生している。 ➡再生中のチャプターの音声がドルビーデジタルの信号になっていない。
DOLBY PRO LOGIC IIランプが点灯しない	➡プロセッサーのEFFECT（効果）スイッチが「OFF」になっている。 ➡アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号またはドルビーデジタル2チャンネル信号が入力されていない。
DOLBY PRO LOGIC IIランプが点灯してしまう	➡プロセッサーのEFFECT（効果）スイッチが「CINEMA」または「MUSIC」になっている。 ➡アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号またはドルビーデジタル2チャンネル信号が入力されている。
DTSランプが点灯しない	➡DVD機器（ゲーム機を含む）のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている。 • お使いのDVD機器の取扱説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。 ➡DTSフォーマットで記録されていない信号を再生している。 ➡再生中のチャプターの音声がDTSになっていない。 ➡DVD機器がDTSに対応していない。 • DTSに対応したDVD機器をお使いください。
デジタル入力時、二重音声の選択ができない。（MAIN、SUBの音声が同時に聞こえる）	➡LINE IN端子にアナログ音声出力をつないで、つないだ機器の方で聞きたい音を選んでください。

使用上のご注意

取り扱いについて

- プロセッサー、ヘッドホンを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。
- 各機器を分解したり、開けたりしないでください。

電源と設置について

- 長い間使わないときは、ACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っぱらずに必ずACパワーアダプター本体をつかんで抜いてください。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高い所。
  - ほこりの多い所。
  - ぐらついた台の上や傾いた所。
  - 振動の多い所。
  - 風呂場など、湿気の多い所。

ヘッドホンについて

まわりの人のことを考えて

ヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液でしめらせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためるので使わないでください。

異常や不具合が起きたら

- 万一異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
- お買い上げ店またはソニーサービス窓口にお持ちになる際は、必ずヘッドホンとプロセッサーを一緒にお持ちください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではデジタルサラウンドヘッドホンシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

プロセッサー　DP-1000

デコーダー機能	
	ドルビーデジタル ドルビープロロジックII DTS
バーチャルサウンド機能	
	OFF CINEMA MUSIC
再生周波数帯域	
	12～22,000 Hz
ひずみ率	1 %以下（1 kHz）
音声入力	光デジタル入力（角型）×1系統 アナログ入力（ステレオミニジャック）×1系統
音声出力	ヘッドホン出力（ステレオミニジャック）×2系統
電源	DC 9 V（付属のACパワーアダプターを使用）
最大外形寸法	約120×120×35 mm （幅／高さ／奥行き）
質量	約200 g

ヘッドホン　MDR-XD050

再生周波数帯域	
	12～22,000 Hz
質量	約175 g（コード含まず）

付属品

ACパワーアダプター（9 V）（1）
光デジタル接続ケーブル（光角型プラグ ↔ 光角型プラグ、1.5 m）（1）
取扱説明書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
保証書（1）

推奨アクセサリー

接続コード　RK-G129（ステレオミニプラグ ↔ ピンプラグ×2）、
RK-G136（ステレオミニプラグ ↔ ステレオミニプラグ）

光デジタルセレクター
SB-RX100P

光デジタル接続ケーブル
POC-5A（0.5 m）、
POC-10A（1.0 m）、
POC-15A（1.5 m）、
POC-20A（2.0 m）、
POC-30A（3.0 m）、
POC-5DSA（0.5 m）、
POC-10DSA（1.0 m）、
POC-20DSA（2.0 m）、
POC-30DSA（3.0 m）（光角型プラグ ↔ 光角型プラグ）、
POC-5AB（0.5 m）、
POC-10AB（1.0 m）、
POC-15AB（1.5 m）、
POC-20AB（2.0 m）、
POC-30AB（3.0 m）（光角型プラグ ↔ 光ミニプラグ）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に

「309」+「#」

を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX(共通) 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 2 6 5 0 4 8 3 0 4 * (1)